

## 放射光を使う共同研究拠点の運営に尽力

谷口 雅樹氏(66)＝東広島市



たにぐち・まさき 松江市生まれ▽1972年、広島大理学部卒▽77年、大阪大大学院博士課程修了▽79年、東京大助手▽87年、広島大理学部助教授▽91年、同大教授▽96年、同大放射光科学研究センター長▽2005年、同大理事・副学長▽15年、同大名誉教授、同センター特任教授

## 世界の施設成果次々

来年発足から20年になる広島大の放射光科学研究センター(東広島市)の構想段階から関わり、海外からも研究者が集まる拠点を育てた。建屋の中の放射光源など実験設備だけでも累計五十数億円を投じている一大拠点。「世界に発信できる、大学の力

放射光は、光に近い速さで飛ぶ電子が

を表現できる施設になる」と確信し、開所に向けて奔走した。学内の意見を調整、当時の文部省との折衝にも当たった。「産業界にも支援してもらいうれしかった」と1996年のスタート時を振り返る。磁場で軌道を曲げられる際に発する強い光。この光を使った分析で原子や電子レベルの世界をくつきり映し出す。超電導発生仕組みなどの基礎研究をはじめ、自動車の排ガスを抑える触媒、生命科学などさまざまな分野の成果が得られている。

学外の研究者の利用人数は2013年度101人、14年度103人。うち海外からそれぞれ41%、35%と高い割合を占める。「ここに来たら期待を上回る成果が出るという評価を得たおかげ」と分析する。理事・副学長を務めた2年間で除きセンター長の任に当たった。技術とノウハウが蓄積できる運営に努めた。理事としては「到達目標型教育プログラム」の全学部導入に尽力。研究科長も務め、3月に定年退職した。特任教授として引き続き責任を果たす一方、「両親や家族のための時間を増やせそう」と柔和な笑顔を見せた。

(金山努)

## [解説]

中国文化賞は、中国地方の文化・学術・地域貢献の分野における優れた功績をたたえるために制定されたものです。(中国新聞社主催)

このたびの受賞では、主に、全国の研究者や学界、地元の自治体・経済界・産業界と協力して広島大学放射光科学研究センターの設置を実現し、その後、全国共同利用施設、更には共同利用・共同研究拠点へと育成した功績が認められました。

特定の研究成果が対象ではなく、地域に根ざして世界にはばたく本センターの活動の全体が評価された点に大きな意義があります。